

株式会社緑生研究所

<http://www.ryokusei-ri.co.jp/>

環境部 庄司顕則 shoji@ryokusei-ri.co.jp

株式会社 緑生研究所

1. 人と自然のあいだに

弊社は長年の生物調査経験をもとに培った生物保全技術と生態的知識に特化した企業として、生物多様性の高い社会の実現に全力で取り組んできました。弊社創業の1974年、高度経済成長が終わりを迎えた日本は深刻な環境問題を抱え、“人の本来あるべき姿”を見失っていました。そのような中、私どもは“自然と共に生きる価値観”こそが人に真の幸福をもたらすと確信し、以来40年余にわたり、一貫して野生生物保全技術に立脚した自然環境保全に携わってきました。

「人と自然のあいだに」—私どもは、人の声に耳を傾け、自然の姿に目を向け、インターフェースとしての役割を今後も担っていきたいと考えています。

2. “生物技術者集団”としての誇り

弊社の最大の特色は、“生物技術者集団”であることです。植物、鳥類、昆虫類、哺乳類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物、陸産貝類など、個々の専門分野におけるスキルを最大限発揮し、さらに融合できる社内体制を構築し、事業にあたっています。

3. “生物技術者集団”の技

私どもが“生物技術者集団”として行ってきた、生物多様性向上・自然再生の取り組みの一部を、ご紹介いたします。

1) 森をつくる 弊社が手掛ける森づくりの特色は、“生物多様性の向上”にあります。国営昭和記念公園（東京都）は米軍立川基地跡地に「緑の回復と人間性の向上」をテーマに整備された公園であり、自然地形を活かした公園とは異なります。弊社は、そこで当初より環境創出・生物多様性向上に取り組んできました。特に“こもれびの丘”は今や青々と茂る見事な樹林となっていますが、1980年代に弊社が生物多様性に配慮した植栽・管理計画を立案し、ボランティアの協力を得て林床管理、間伐等を行ってきました。園内では他にも様々な仕掛け（今でいうビオトープ等）を施した結果、創出された都市緑地において生物多様性が年々向上していま

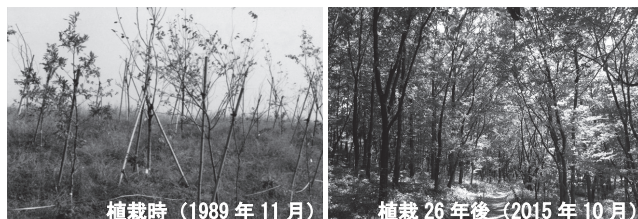


写真-1 “こもれびの丘” 植栽時と26年後の様子。

表-1 会社概要と連絡先

| | |
|------|----------------------------------------------------------|
| 所在地 | 東京都調布市小島町 2-40-10 桐生ビル 2F |
| 創業年 | 1974年（昭和49年） |
| 資本金 | 10,000,000円 |
| 支所 | 大阪（豊中市南桜塚 2-6-30 カワサキビル 2F） |
| 営業所 | 栃木、埼玉、千葉、神奈川、愛知、兵庫 |
| 事業内容 | 自然環境の調査及びコンサルティング、環境アセスメント、自然再生支援、エコロジカル・プランニング、環境CSR支援他 |
| 連絡先 | TEL 042-499-7211（本社代表） |

す。その他、里山において公園利用と生物多様性保全を両立させる管理手法の提案（国営みちのく杜の湖畔公園、宮城県）や人工地盤上の森づくり（UR都市機構、埼玉県）等を行ってきました。

2) 生物・環境を守る 植物に限らず多くの希少生物の保全に携わってきましたが、生態を理解し、環境を見抜くという点で、まさに生物技術者としての腕の見せ所です。例えば、カワラノギクは河川敷という動的かつ環境変化の大きい立地に生え保全が困難な種ですが、事例収集や専門家からの助言のほか、詳細な現地観察により適切な播種方法を選択し、開花・結実に至りました。また、砂丘植生の保全・再生（国営ひたち海浜公園、茨城県）、シカ食害の影響・シカ柵効果把握の基礎調査（東京都・神奈川県）、河川敷における在来植生保全のための外来種防除の検討やシードバンク分布特性の把握（国土交通省国土技術政策総合研究所）、ナラ枯れ対策の検討（企業敷地、兵庫県）等を手掛けてきました。

3) 新たな技術の導入 種子パケットを使った「野外播種試験（自生地播種法）」によるラン科等の保全技術にいち早く注目し、現在は茨城県自然博物館との共同研究で、オオウメガサソウの分布南限個体群（国営ひたち海浜公園）の保全を目標とした野外播種試験に応用しています。また、UAVに搭載したLiDARのデータ活用方法についても注目しています。

4. 生物多様性の高い社会の実現に向けて

上記のほか、工場緑地をもつ企業の環境CSR支援として、敷地内の生物調査から生態系評価、生物多様性向上のための緑地管理、絶滅危惧植物の保全、草原生態系の再生、カワセミの営巣地創出に携わるなど、弊社は社会貢献にも力を入れてきました。

生物技術者集団としてのスキル、実績、経験を活かし、さらに様々な技術者との連携や新たな技術を導入することで、今後も自然再生や生物多様性保全などを通じた新たな価値創出の取り組みを続けていきたいと考えています。